旅たび 季節のウォーキング

天下の険、江戸時代の旧街道を歩く
神奈川・元箱根

古色蒼然とした石畳、旅人を強い陽射しから守った杉並木と疲れをいやした峠の茶屋。江戸時代、小田原から三島へと続く東海道の一角をなした箱根八里の一部を、往時の旅人気分で歩いてみましょう。

雨に濡れた石畳：箱根八里は標高が800mを越える山越えの難所。少しでも歩きやすくと石畳が敷かれている。

関所跡から富士山を映す芦ノ湖に沿って進む

箱根湯本駅からバスに揺られること約45分、元箱根の箱根関所跡入口バス停で降ります。

箱根旧街道のスタート地点は、箱根関所跡です。ここには、取り調べの際に使ったお手つき石、首洗い井戸などが残っています。関所の向かい側に位置する丘に登ると遠見番所があり、芦ノ湖を一望できます。

江戸時代に植林された約420本の杉並木を歩く

芦ノ湖を左にみながら湖畔を数分歩くと恩賜箱根公園に出ます。ここの駐車場に沿った国道1号線を渡ると滝廉太郎作曲の箱根八里で「昼なお暗き」と歌われた樹齢350年以上の杉の巨木が連なる旧街道杉並木が現れます。杉並木は国道1号線に沿って約800mにわたって続いています。

いったん国道1号線に出て、30分ほど歩き、箱根神社の鮮やかな朱色の一ノ鳥居をくぐり抜けたら、芦ノ湖に別れを告げて興福院の脇道を登ります。

杉並木

古の旅人が往来した石畳の道へ

登り坂を行くとケンペルとバニーを記念する碑が現れます。ここを通り過ぎると旧街道で一番長い石畳の道が続きます。まず緩やかな登り坂の権現坂が現れます。平らな石が敷かれた歩きやすい道です。しばらく行くと箱根馬子の碑が現れ、下り坂になります。

白水坂（しらみずざか）へと進みます。白水坂は、その昔、小田原攻めの際、豊臣秀吉の軍勢が「城を見ずに引き返した」のが地名の由来といわれ、江戸時代の石畳の面影を色濃く残しています。

この先の旧街道は所々で県道と交差しています。樹林の中のお玉坂の石畳を下るとゴール地点の県道に面した甘酒茶屋が現れます。名物の甘酒を飲み力餅を頬張れば疲れも吹き飛んでしまいます。

一息ついたら、ここからバスで箱根湯本駅へ戻ります。

甘酒茶屋

関所跡

アクセス：【電車】
東京方面からは、新宿駅から小田急電鉄で箱根湯本駅で下車（1時間25分）など。
箱根湯本駅からは路線バスで箱根関所跡入口バス停で下車（45分）。

コース：箱根関所跡入口バス停→（10分）→旧街道杉並木→（30分）→賽の河原・一ノ鳥居→（5分）→興福院→（20分）→石畳→（10分）→甘酒茶屋

距離：約3km

所要時間：約75分

歩数の目安：8,000歩

箱根町観光協会　TEL.0460-85-5700
http://www.hakone.or.jp

ワンポイントアドバイス

山間の早朝は霧雨にあいやすく午前中にわたり石畳が濡れて滑りやすくなっていることもあります。また不揃いの石が敷き詰められた石畳の道は歩きにくいのでウォーキングシューズなどで足元をしっかりさせておきましょう。